

「ダーナ」とはサンスクリット語で、「布施」の意。

ダーナ●第28号  
 発行日●平成28年9月25日  
 編集／発行●浄土宗平和協会（JPA）  
 発行人●川副春海

## YEAR BOOK

## Jodo Shu Peace Association

浄土宗平和協会に対する私の理解は、もともとは第2次世界大戦の惨禍に思いを致しての不戦の誓いが発足のベースにあるというものです。

では平和とは何か。単に戦争がない、しないということだけではなく、そこに至る原因、経済的貧困、社会的不平等、社会的不正義など、暴力へと発展していく過程において、それらの原因を解決するアプローチをも含むのだと考えます。

浄土宗平和協会が支援の中心に据えたのは、海外で活動するNGO団体が行う、一人ひとりの命が守られる取組みに対しての支援でした。まさに戦争に至る根本的な原因の解決を試みようという支援活動です。

スタディーツアーで私たちが実際にNGO活動の一端にふれて現地の方と交流する。その活動の精神を私たちは日々の教化に生かすことで、平和に対する願いが広がっていく、というのが当初理想とした姿目的なのでしょう。

例えばスタディーツアー後のフォローアップ研修会などを実施することで、



戸松義晴副理事長

## 戸松義晴副理事長に聞く

## 浄土協の「存在意義」とは

会員の自発的で有機的な活動を誘発していくようなイメージだと思います。現在に至っては海外支援だけではなく、様々な課題を抱える国内にも目を向けるということも考える時期に来ているのではないかと思います。

ところで、日本のお寺の多くは、檀信徒からのお布施を経済基盤にしていますよね。人口が減少していくこれからの時代、今までの「ビジネスモデル」を維持していくことは難しいでしょう。いまお寺は、社会の中の「存在意義」を明確にしていく必要があると思います。いくら教えが素晴らしくとも、「存在意義」のないものは消えていく運命をたどります。そこで私たちがまず考えるべきは、社会から期待されていることは何かということ、そして、お念仏の教えを日々の檀信徒との関わりの中でどう具現化するかということでしょう。

我々僧侶が、人々の悲しみ、苦しみに関わる時、多くの場合、今は家族の誰かを失った時です。その人の生きている中での悲しみ、苦しみに関わることは少ない。浄土宗平和協会の今の活動は、まさに生きている中での悲しみ、苦しみに寄り添うものであって、私たちが、僧侶として檀信徒に対する今までとは違うアプローチを提案する可能性を持っていると思います。

翻って、浄土宗平和協会のこれからの活動を考える時、人々の「今」の悲しみ、苦しみ、不安に寄り添っていくことが、協会の「存在意義」として重要になるのではないかと思います。現在までの活動も、たいへん素晴らしいものではありませんが、現状で満足せずに、理事会はもちろん、会員みなさんと共に、これからの浄土宗平和協会の「存在意義」と可能性を模索していけたらと思います。

# 浄土宗平和協会 年次レポート



浄土宗平和協会（JPA）では、浄土宗劈頭宣言にある「愚者の自覚」に立ち、「世界と共生する」ために、平和の問題に取り組み。具体的には皆さまから寄せられる浄財・平和念仏募金によりNGO支援、ブックギフト活動、浄土宗平和賞、スタディーツアーなどの事業を行っております。

会報ダーナでは、昨年度の事業を報告するとともに、平成27年度の運営予定などを報告いたします。

## ブックギフトは平成27年度も 東京、関西、名古屋で実施

ブック・ギフト活動は、浄土宗平和協会（JPA）の主要な活動の一つで、東京都、愛知県、関西圏の大学・大学院に通学する私費留学生に、日本語でレポートを書けば、1万円以内の希望する図書を受領できる、というもの。

平成28年度のブック・ギフトは、11月から12月にかけて、東京（大本山増上寺）、名古屋（建中寺＝名古屋市東区）、関西（大本山百万遍知恩寺）の3カ所で授与式が行われ、合計36人の留学生が希望図書を受け取った。

第8回ブック・ギフトin Tokyo／第5回ブック・ギフトin Kansai／第3回ブック・ギフトin Nagoya

- 応募者数  
東京…12名 関西…12名、名古屋…12名
- 授与式参加者数  
東京…11名 関西…12名、名古屋…12名
- 応募者国  
東京…中国9名、台湾1名、タイ1名、フィリピン1名  
関西…中国9名、韓国3名  
名古屋…中国8名、ベトナム4名
- 応募者大学別一覧（応募者数順）  
東京…青山学院大3名、駒澤大2名、立教大2名、国際医療福祉大1名、昭和大1名、創価大1名、拓殖大1名、中央大1名  
関西…京都大5名、大阪大2名、同志社大2名、京都工芸繊維大1名、近畿大1名、神戸市外国語大1名  
名古屋…名古屋大4名、名古屋工業大4名、愛知淑徳大2名、愛知大1名、愛知県立芸術大1名
- 応募者在籍一覧  
東京…大学院5名 大学6名 研究生1名  
関西…大学院9名 大学3名  
名古屋…大学院8名 大学3名 研究生1名

## 第8回浄土宗平和賞は おてらおやつクラブに授与

「第8回浄土宗平和賞」の授賞式が5月11日、浄土宗平和協会総会のなか宗務庁（東京）で行われた。今回受賞したのは、「おてらおやつクラブ」（松島靖朗代表＝奈良県・安養寺住職）。

「おてらおやつクラブ」の活動は、趣旨に賛同する全国のお寺と、ひとり親家庭を支援する各地域の団体をつなげ、経済的に困難な状況にあるひとり親家庭へお菓子や果物、食品や日用品を届けるという、独創的な着眼点が高く評価された。また、活動期間は短いものの、寺として容易に取り組みやすい仕組み作りが相まって、平成28年3月末現在、参加寺院は322カ所、支援団体は78団体と、

## 平成27年 平和念仏募金によるNGO支援実績

団体	プロジェクト名	援助額
日本国際ボランティアセンター（JVC）	アフガニスタン／ナンガハル県北東部における住民主体の生活改善事業	¥700,000
パレスチナ子どものキャンペーン	シリア／シリア避難民への物資配布事業	¥500,000
反差別国際運動（IMADR）	ネパール／ダリット女性に対する暴力の削減プロジェクト	¥500,000
ジユマ・ネット	バングラデシュ／チッタゴン丘陵地帯の人権問題解決の丘陵委員会の活動	¥500,000
NPO法人ユニ	「アースキャラバン 2015」国内・ドイツ・オーストラリア・パレスチナ・イスラエル他	¥200,000
国際子ども権利センター	カンボジア／人身売買・児童労働防止のための啓発ネットワーク	¥600,000
計		¥3,000,000

全国に支援の輪が広がりをみせており、今後の継続性が高いことなども評価され、理事の総意として第8回浄土宗平和賞授賞者として決定した。

## アースキャラバン2015を共同主催

平成27年度に支援したNGO団体の一つ、NPOユニ主催の「アースキャラバン2015」。浄土宗平和協会では、その趣旨に賛同し、NPOユニとの共同主催という立場で、特に京都、東京でのイベント開催を支えた。

終戦70周年の2015年夏、世界各地で平和の祈りの祭典を行い、一人一人の平和の願いを世界でシェアしようとの趣旨で「平和の火」を広島からエルサレムへ運ぼうという壮大なイベントは、7月15日にスタートし、8月12日にエルサレムでのイベントを最後に終了した。

## 平成27年度 浄土宗平和協会事業報告

平成27年4月～平成28年3月

平成27年			
4月14日（火）	第1回理事会	13:30～	東京宗務庁
4月27日（月）	監査会	13:00～	京都宗務庁
5月11日（月）	平成27年度総会	13:30～	京都宗務庁
5月11日（月）	第2回理事会	14:30～	京都宗務庁
5月11日（月）	第7回浄土宗平和賞贈呈式・NGO活動紹介	15:00～	京都宗務庁
7月17日（金）	事務局会議	16:00～	大阪・應徳院
7月19日（日）	アースキャラバン2015（主催：NPOユニ、共催：浄土宗平和協会）	11:00～	大本山増上寺
7月	会報ダーナVOL.26（年次報告書）発行、会費請求、会員募集		
7月	ブック・ギフトin Tokyo in Kansai in Nagoya 応募要項配布		
9月8日（火）	事務局会議	16:00～	大阪・應徳院
9月	ブック・ギフトin Tokyo in Kansai in Nagoya 応募受付開始 平成27年9月1日～10月7日まで		
11月4日（月）	第1回正副理事長会議	11:00～	東京宗務庁
11月4日（月）	第3回理事会	13:30～	東京宗務庁
11月29日（日）	第8回ブック・ギフトin TOKYO 授与式	15:00～	大本山増上寺
11月	第8回浄土宗平和賞募集（12月号宗報掲載）		
12月6日（日）	第5回ブック・ギフトin KANSAI 授与式	15:00～	大本山知恩寺
12月13日（日）	第3回ブック・ギフトin NAGOYA 授与式	14:00～	建中寺
12月	会報ダーナVOL.27発行、平和念仏募金お願い、平成28年度予算折衝		
平成28年			
1月	第8回浄土宗平和賞募集締め切り		
2月26日（金）	平和の集い	18:30～	大阪・應徳院

## 平成27年度 浄土宗平和協会収支決算書

（自：平成27年4月1日 至：平成28年3月31日）

### ■収入の部

款	項	予算額	決算額
(1)	会費	5,100,000	6,196,000
	①正会員会費	5,000,000	6,120,000
	②賛助会員会費	100,000	76,000
(2)	寄付金	2,200,000	1,914,684
	①平和念仏募金	2,100,000	1,914,684
	②緊急募金	100,000	0
(3)	助成金	1,950,000	1,650,000
	①浄土宗助成金	1,950,000	1,650,000
(4)	雑収入	30,000	3,465
	①雑収入	30,000	3,465
(5)	繰入金	1,434,970	1,434,970
	①前年度繰入金	434,970	434,970
	②基金繰入金	1,000,000	1,000,000
収入合計		10,714,970	11,199,119

### ■支出の部

款	項	予算額	決算額
(1)	事業費	7,430,000	6,999,564
	①NGO団体支援金	3,000,000	3,000,000
	②緊急救援資金	100,000	0
	③ブック・ギフト費	1,200,000	720,088
	④平和大会等関連費	550,000	510,300
	⑤会報費	2,300,000	2,214,125
	⑥啓発・普及費	10,000	22,680
	⑦スタディーツアー関連費	10,000	0
	⑧支部事業助成費	200,000	200,000
	⑨各種団体連帯費	30,000	152,371
	⑩調査研究連帯費	30,000	180,000
(2)	会議費	960,000	1,168,452
	①総会費	100,000	58,570
	②理事会費	500,000	647,562
	③正副理事長会費	100,000	84,280
	④事務局会費	260,000	378,040
(3)	事務費	1,010,000	1,208,742
	①事務費	1,000,000	1,100,762
	②旅費	10,000	107,980
(4)	繰出金	1,000,000	1,000,000
	①基金繰出	1,000,000	1,000,000
(5)	予備費	314,970	191,500
	①予備費	314,970	191,500
支出合計		10,714,970	10,568,258

平和基金	
平和基金	17,741,254

# 浄土宗平和協会 年次レポート



新体制となって2年目の平成28年、会員数は現在677人（正会員）となり、当面の目標としていた700人も目前となってきました。浄土宗平和協会では今年“審念熟慮”の一年にしたいと考えています。

平和念仏募金によるNGO支援やブック・ギフト、浄土宗平和賞、スタディツアーという軸になる事業を今年も実施しますが、過去の成果を客観的に評価し、次年度以降のあり方を検討したいと考えています。

浄土宗の公益団体として、内外ともに認められ、自立した事務局体制を構築するよう努力して参る所存です。本年度もどうぞ、浄平協（JPA）のご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 真の公益教化団体を目指します

今年度、本会第1回の理事会では、各事業を「評価」し、それに基づく見直しを検討することが目標に掲げられました。

特にNGO支援については、一つのプロジェクトに対して最長5年として、総額300万円の支援を行ってまいりましたが、平成27年度で5年を終える団体に対する支援を打ち切り、来年度以降のあり方を検討することになりました。

その他の事業の見直しも含め、「公益教化団体」としての事業のあり方を模索しながら、一般社会でも認知される団体を目指して活動します。

## ブックギフトは今年も in Tokyo、in Kansai、in Nagoyaで第9回浄土宗平和賞を実施します

ブックギフト事業も東京では9回目を迎えます。東京の他に、6回目の関西、4回目の名古屋と今年も3地区で開催予定です。今年は、希望図書合計金額の上限を1万円から1万5千円とし、専門書等の高額な書籍の希望に対しても対応できるようにしました。

応募者は、東京、関西、名古屋ともに、著名な大学、大学院、研究生など優秀な人材が、応募していただいております。東京では大本山増上寺にて12月4日に、関西では大本山百万遍知恩寺にて12月4日、名古屋では名古屋市中建中寺にて12月11日の開催になります。

浄土宗平和賞も今年で9回目を数えます。毎年、宗教マスコミなどにも大きく取り上げられ、優秀な宗内の人材

を顕彰することができることは、たいへん意義深いことだと思います。本年度も会員様の推薦により、候補を決め、来年3月に決定する予定です。推薦のほど、よろしくお願いいたします。

## 会員加入を呼びかけ、会の基盤を充実します

平成27年度末で会員数677人、賛助会員34人（団体）となりました。皆さまのご理解ご協力を感謝いたします。今年度は、みなさまからのご理解ご支援を元に、さらなる会員増をめざします

また本年度も、浄土宗保育協会、浄土宗スカウト連盟、浄土宗児童教化連盟と協働してポスター配布を全国の御

## 平成28年 平和念仏募金による支援NGO一覧

団体	プロジェクト名	援助額
① 日本国際ボランティアセンター（JVC）	アフガニスタン／ナンガハル県北東部における住民主体の生活改善事業	¥700,000
② パレスチナ子どものキャンペーン	シリア／シリア避難民への物資配布事業	¥500,000
③ 反差別国際運動（IMADR）	ネパール／ダリット女性に対する暴力の削減プロジェクト	¥500,000
④ ジュマ・ネット	バングラデシュ／チッタゴン丘陵地帯の人権問題解決の丘陵委員会の活動	¥500,000
計		¥2,200,000

寺院におこないます。よろしくお願いいたします。

## 今年も平和念仏募金、NGO支援を行います

平成10年度から全浄土宗御寺院のご理解の元、行ってまいります平和念仏募金の呼びかけを今年度もまた12月に行う予定です。

平和念仏募金を原資としたNGO支援は、ネパール、パレスティナ、バングラデシュなどで活躍する日本のNGOへ助成され、有効に活用されております（詳しくは表参照）。規定として、一事業5年という期間を設け、NGOの事業にも自立を促すような構造になっております。最初にも書いた通り、今後の支援のあり方を検討していきます。

## 平成28年度 浄土宗平和協会事業計画

平成28年4月～平成29年3月

平成28年			
4月12日（火）	第1回理事会	13:30～	京都宗務庁
5月11日（月）	平成28年度総会	14:00～	東京宗務庁
	第8回浄土宗平和賞贈呈式・NGO活動紹介	15:00～	
5月13日（金）	共生こども連絡会議	13:00～	京都宗務庁
5月	監査会		
6月29日（水）	第1回正副理事長会議	13:00～	東京宗務庁
7月	平成28年度会費請求、会員募集		
	会報ダーナVOL.28（年次報告書）発行		
	ブック・ギフト 応募要項配布		
9月	ブック・ギフト 応募者受付開始		
10月17日（月）	寺院縮小時代における〈社会貢献〉を考える	13:30～	浄土宗教化研修会館
11月15日（火）	第2回理事会	13:30～	東京宗務庁
11月	第9回浄土宗平和賞募集		
12月4日（日）	第9回ブック・ギフト in Tokyo 授与式	15:00～	大本山増上寺
	第6回ブック・ギフト in Kansai 授与式	15:00～	大本山知恩寺
12月11日（日）	第4回ブック・ギフト in Nagoya 授与式	14:00～	建中寺
12月	平成29年度予算折衝		
	会報ダーナVOL.28発行、平和念仏募金のお祝い		
平成29年			
1月30日（月）～2月3日（金）	第9回スタディツアー（パラオ）		
1月	第9回浄土宗平和賞募集 締め切り		
3月	第2回正副理事長会議		
事務局会	随時		
緊急募金	随時		

## 平成28年度 浄土宗平和協会収支予算

（自：平成28年4月1日 至：平成29年3月31日）

### ■収入の部

款	項	28年予算額	27年予算額
(1)	会費	6,100,000	5,100,000
	①正会員会費	6,000,000	5,000,000
	②賛助会員会費	100,000	100,000
(2)	寄付金	2,420,000	2,200,000
	①平和念仏募金	2,320,000	2,100,000
	②緊急募金	100,000	100,000
(3)	助成金	2,050,000	1,950,000
	①浄土宗助成金	2,050,000	1,950,000
(4)	雑収入	30,000	30,000
	①雑収入	30,000	30,000
(5)	繰入金	1,630,861	1,434,970
	①前年度繰入金	630,861	434,970
	②基金繰入金	1,000,000	1,000,000
収入合計		12,230,861	10,714,970

### ■支出の部

款	項	28年予算額	27年予算額
(1)	事業費	7,770,000	7,430,000
	①NGO団体支援金	2,400,000	3,000,000
	②緊急救援資金	100,000	100,000
	③ブック・ギフト費	1,200,000	1,200,000
	④平和大会等関連費	550,000	550,000
	⑤会報費	2,300,000	2,300,000
	⑥啓発・普及費	10,000	10,000
	⑦スタディツアー関連費	210,000	10,000
	⑧支部事業助成費	200,000	200,000
	⑨各種団体連帯費	300,000	30,000
	⑩調査研究連帯費	500,000	30,000
(2)	会議費	1,400,000	960,000
	①総会費	100,000	100,000
	②理事会費	800,000	500,000
	③正副理事長会費	100,000	100,000
	④事務局会費	400,000	260,000
(3)	事務費	1,010,000	1,010,000
	①事務費	1,000,000	1,000,000
	②旅費	10,000	10,000
(4)	繰出金	1,000,000	1,000,000
	①基金繰出	1,000,000	1,000,000
(5)	予備費	1,050,861	314,970
	①予備費	1,050,861	314,970
支出合計		12,230,861	10,714,970

平和基金	
平和基金	17,741,254

## 第8回浄土宗平和賞

# お供えで母子家庭支援 「おてらおやつクラブ」が受賞

浄土宗平和協会平成28年度総会は5月11日、宗務庁（東京）で行われ、その席上、「第8回浄土宗平和賞」の授賞式が行われた。

今回受賞したのは、お寺へのお供え物をひとり親家庭に「おすそわけ」する「おてらおやつクラブ」。お寺にお供えされるさまざまな「おそなえもの」を、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、全国のひとり親家庭を支援する団体との協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」という独創的な活動が、今回の受賞となった。

「おてらおやつクラブ」を発案した松島靖朗師は、平成25年5月、大阪市北区のマンションで、「最後にたくさん食べさせてあげられなくてごめんね」というメモを残し、母子の遺体が見つかったニュースをきっかけに、大阪の市民団体に相談。同年10月からひとり親の2家族にお供え物の食料品を送り始めたという。おすそわけを通じ、ご家庭と支援団体との関係性の深まりに寄与し、貧困問題の解決への貢献を目指すという同クラブの趣旨に賛同する寺院は、全国に広がり続けている。



川副春海理事長より表彰されるおてらおやつクラブ・松島靖朗師

浄土宗平和賞は、社会参加する寺院、住職、団体を顕彰しようと、平成21年より設けられた。選考は、4月に行われた浄平協理事会で、推薦された3件（団体、個人）より、選抜された。

寄稿

## お寺の社会福祉活動

應おてらおやつクラブ代表 松島靖朗

### 「おそなえ」の「おすそわけ」

日本国内において子どもの6人に1人が貧困状態にあります。「おてらおやつクラブ」は、全国のお寺と支援団体、そして檀信徒および地域住民が協力し、慈悲の実践活動を通じて貧困問題解決への貢献する活動です。

「おてらおやつクラブ」は、お寺

にお供えされるさまざまな「おそなえもの」を、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、全国のひとり親家庭を支援する団体との協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へと「おすそわけ」する活動です。活動の趣旨に賛同する全国のお寺と、ひとり親家庭を支援する各地域の団体をつなげ、お菓子や果物、食品や日用品をお届けしています。

本格スタートからはや2年半が経ち「おてらおやつクラブ」の活動は、ご賛同・ご支援いただいている様々な宗派のお寺が380カ寺を超えました。北は北海道から南は沖縄まで全国の都道府県のお寺にご参加いただいています。また、支援先の母子家庭・団体は合計で150を超え、毎月おやつが届く子どもの人数は2015年の年間のべで約10,000名、おやつのお返し回数も2015年間で累計1,000回を数えるまでになりました。2016年6月時点で毎月3,300人の子どもたちが全国のお寺

から届けられる「おそなえ」の「おすそわけ」を楽しみにしています。

### 深刻さを増す貧困問題

活動が多くの方に知られるようになり、これまでお寺とご縁のなかった方や貧困問題がここまで深刻であるとはご存知なかった方々から支援のご相談をいただくケースが増えています。社会のために何かしたい多くの方々がお寺の活動を応援してくださっています。社会貢献活動の一環として、自社商品を提供くださる企業さまも増えてきています。お寺のネットワークが社会問題を解決するためのインフラとして機能していく可能性を感じています。

しかしながら、全国にはまだまだ支援の必要な母子家庭は多く、さらに多くの参加寺院の開拓と発送数・発送量の拡大が必要な状況です。

国内の貧困問題が深刻です。貧困状態に陥る原因はさまざまですが、経済的に困難な状況にあり孤立してしまう困窮者を自己責任論で見捨ててしまうことはできません。貧困母子の心中事件や、ダブルワーク・トリプルワークで子どもと過ごす時間を取れず、子どもが事件に巻き込まれてしまうというケースも連日報道されています。

貧困問題が広がる背景には離婚や様々な事情による未婚状態での子育てなど、ひとり親家庭の増加があります。全国には母親と子どものみで生活する母子世帯が82万世帯あり、その半分が貧困状態にあると言われています。ひとり親家庭の増加は、子どもの貧困を生み出します。現在、日本の子ども（18歳未満）の6人に1人が貧困状態にあり、おおよそ300万人の子どもが該

当します。

2015年4月、生活困窮者自立支援法が施行されました。行政や民間団体などもこの問題に対してさまざまな施策を展開していますが、決して十分とはいえない状況です。

子どもたちにとって楽しいはずの夏休み。一日一食で生活する子どもたちにとって給食が唯一の栄養源です。学校がお休みにあり給食がなくなる長期休暇は、子どもたちの生活困窮度は増すばかりです。

貧困問題は遠い国、発展途上国で起こっている問題ではなく、日本国内、皆さんの身の回りでも存在する身近で深刻な問題なのです。貧困状態で生活する子どもたちは、自身がおとなになった時にも貧困生活を繰り返さざるをえない負の連鎖、貧困の連鎖を引き起こす厄介な問題でもあります。貧困状態の放置は、子ども世代、孫世代へと連鎖していきます。

### 慈悲の実践活動として

日本財団の調査によると、貧困家庭の子どもを支援せずに格差を放置すると、現在15歳の子どもの1学年だけでも、社会が被る経済的損失が約2兆9千億円に達するとの見通しです。

貧困家庭の進学を促して収入のよい仕事に就くチャンスを広げないと、社会は差額の約2兆9千億円を失ってしまうのです。昨今、日本人のお寺離れ、儀礼儀式の簡略化が進んでい

ますが、その背景には経済的な要因も含まれるでしょう。貧困状態の放置は、単なる経済問題だけでなく、信仰の相続が困難な状況に陥っていくという問題でもあるのです。

将来の社会の担い手を救うためにも、そして仏教信仰の相続を確かなものにするためにも、貧困問題の早期解決が必要です。社会構造の変化もあり、貧困問題の解決には相応の対策、そしてそれを実現する体制規模と時間が必要です。

考えてみれば、多くのお寺は数百年の歴史があり、その中で数千年、数万年の時間軸をもつ仏の教えという物語を語り継いできた場所です。現代社会における目を背けたくないような大きな課題に、ようやくお寺の出番がやってきたのではないのでしょうか。

「おてらおやつクラブ」は、物資の支援にとどまらず、苦しむ人々の状況を想像し、お寺が社会に対してなにができるか？ 宗教者が檀信徒や地域住民とともに模索しながら行動する慈悲の実践活動でもあります。全国に7万以上あると言われるお寺が貧困問題の解決にむけて活動すれば、その解決への貢献の一助になると確信しています。

当活動はお寺へのお供え物をお



すそわけするものですから、多くのお寺さまが容易に参加することができます。無理のない範囲で支援活動をスタートし、活動参加をきっかけに貧困問題に接し、檀信徒らと共にお寺の存在価値や仏教の利他精神などを考えることにつながる機会にもなっています。当活動によって全国のお寺が社会活動の側面から仏教精神を発揮することは、仏教を通じて豊かな人間性を育て、よりよい社会形成を推進することにつながっていくことでしょう。

仏さまの慈悲を届ける

「おてらおやつクラブ」は単なる食糧支援ではありません。檀信徒の皆さまよりお預かりした仏さまへのお供え物を「おすそわけ」するわけですから、そこには仏教が説く慈悲の実践がなされなければならないの

です。

“お仏飯”という言葉があります。朝一番にお仏壇や本堂の御本尊さまにお供えする炊きたてのご飯を指すこともあれば、仏さまにお供えされるもの全般を指す場合もあります。私たち僧侶は、このお仏飯を日々「おさがり」として頂戴し、育てていただく存在であります。

「おてらおやつクラブ」の活動は、「お仏飯」を「おすそわけ」する食糧支援の側面もありますが、仏さまのお慈悲をお届けすること、困っている方がたが助けを求められることができる、孤立しない状況を作っていくことが最も大切であると思っています。

おやつを受け取ったお母さんたちからの共通するメッセージは「自分たちのことを見守ってくれている人がいる」ことへの感謝です。孤立している状況が少しでも和らぐ効

果があると実感しています。僧侶は「愚かな私たちを見守ってくれる仏さま」の存在のありがたさを日々説いています。支援活動を通して親御さんより頂戴するメッセージから、改めて「見守ってくれる存在のありがたさ」を認識させていただくことができ、より信仰を深めるきっかけにもなっていると思います。

この活動がきっかけとなり、貧困問題が遠く貧しい国々での話ではなく、この豊かだといわれる日本国内での話、自分たちの生活する地域の身近なところで起きている問題であると気づき、僧俗手を取り合い行動する人々が増えていくことを期待しています。

みなさまのご参加をお待ちしております。

おてらおやつクラブWEBサイト  
http://otera-oyatsu.club

浄土宗平和賞とは？

昨今、改めて「社会参加する仏教」という言葉が提唱されています。本来、宗教的救済すなわち教化と、社会事業の実践は不可分であるといえましょう。

時代の急激な変化が大きな社会矛盾を抱え込むこととなった明治期、貧困の救済をテーマに各宗派・各教団が積極的に慈善事業に取り組み、足尾銅山鉍毒事件や東北地方の大飢饉の災害救済活動にも、宗派を挙げた活動が成果を挙げました。また我が宗に於いては、児童擁護施設の

建設や児童教育のほか、渡辺海旭師の主導のもと、各種の貧困対策事業が開始されています。これらは、後に大きく発展する浄土宗の社会福祉事業の礎となりました。

現代に目を移すと、戦後の高度成長時代を経て、日本の社会は大きく変化を遂げ、共同体や家族の崩壊は数々の社会問題を引き起こしています。このような状況において地縁・血縁を基とした伝統的寺院のあり方に加え、地域コミュニティの再構築、共同体の回復の核となる役割も期待

されています。かつては貧困の救済が主なテーマであった各社会事業も、現代においてはグローバル化や社会問題の複雑化に伴い、多岐にわたる対応が求められています。

本協会は「共生（ともいき）」の理念を基に、一切の生きとし生けるものの安寧と平和を願う仏教者として、「社会参加する仏教」を推進しています。この度の「浄土宗平和賞」の創設は、各地で積極的に社会活動をなさっているご寺院・教師・寺族等の方々の顕彰すると共に、その活動内容等を広く会員にご紹介することによって、公益に資する未来の寺院のあり方のモデルとなり、格好のケーススタディと成り得ると考えています。

パラオには、悲惨な戦争の記憶が、深く刻み込まれています。太平洋戦争末期、昭和19年9月から2ヶ月あまりのペリリュー島の戦闘で、日米双方の戦死者は13,000人を超し、特に日本側の犠牲者は10,000人あまり、捕虜202人、最後まで戦って生き残ったものわずか34人という想像を絶する戦いでした。



ペリリュー島・西太平洋戦没者の碑

ご存じの通り、天皇皇后両陛下が昨年4月、パラオに慰霊の旅をなさいました。浄土宗平和協会も、戦争犠牲者の極楽往生を祈念する旅を企画いたしました。ぜひ、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、パラオには珊瑚礁の島という側面もあります。世界でもトップクラスのダイビングスポットもあります。海を楽しむオプションツアーも企画しております。

詳しくは、同封のパンフレットを参照してください。申込は同封の申込書に記入の上、BS観光アショカツアーズまで。浄平協のツアーは毎回、定員オーバーでお断りする可能性があります。参加希望の方は、電話で仮予約を取ることも可能です。仮申込より7月31日（木）まではキャンセル料はかかりません。浄平協会員は5%引きとなります。

- 旅行期間：平成29年1月30日（月）～2月3日（火）5日間
- 旅行代金：315,000円（浄平協会員）、328,000円（一般参加）
- 申込締切：平成28年10月28日（金）必着
- 参加人数：20名様程度（最少催行人員15名）
- 【問い合わせ】BS観光アショカツアーズ／Tel：06-6444-2225（担当：道家、川田）

日にち	発着都市	現地時間	交通機関	摘要
1月30日（月）	成田空港 グアム グアム パラオ	発着 11:00 15:45 19:50 21:00	UA-857 UA-157	午前9時 成田国際空港集合 成田空港→[ユナイテッド航空] グアム（乗継） グアム→[ユナイテッド航空] パラオ（コロール） 【パラオ・ロイヤル・リゾート泊予定】
1月31日（火）	パラオ	終日		終日、コロール島・バベルダオブ島の戦跡巡り（南洋庁支庁・特二式内火艇・防空壕・海軍墓地・南洋神社・和久井兵站病院等々）とガスパン慰霊碑にて慰霊法要 【パラオ・ロイヤル・リゾート泊予定】
2月1日（水）	パラオ（ペリリュー島）	終日		終日、パラオ南に位置するペリリュー島にて戦跡巡り（みたま・博物館・軽戦車・旧日本軍総司令部跡地・オレンジビーチ・ゼロ戦・アメリカ軍戦車・ペリリュー島神社等々）と西太平洋戦没者の碑にて慰霊法要 ※昼食はお弁当となります。 ※ペリリュー島までは往復、専用ボートを利用します。 【パラオ・ロイヤル・リゾート泊予定】
2月2日（木）	パラオ			終日、自由行動 ※シュノーケルや体験ダイビングなど各種オプションツアーをお楽しみください。 深夜、空港へ ※ホテルのお部屋は出発までご利用いただけます。 【パラオ・ロイヤル・リゾート泊予定】
2月3日（金）	パラオ グアム グアム 成田空港	発着 01:45 04:50 06:55 09:40	UA-158 UA-828	パラオ（コロール）→[ユナイテッド航空] グアム（乗継） グアム→[ユナイテッド航空] 成田空港

珊瑚礁の島。パラオ  
太平洋戦争犠牲者慰霊の旅



## 熊本地震緊急募金に485件総額11,193,543円

本年4月14日に前震、4月16日に本震が発生した熊本地震。浄土宗平和協会では、4月20日より被災地を除く全国の浄土宗寺院を対象に緊急募金を開始、9月26日現在で485件総額11,193,543円をお寄せいただきました。募金をお寄せいただいた皆さまへ、この場をお借りして深く感謝の念を表明いたします。

今回多額の支援をお寄せいただきましたことで、緊急支援として被災地で復興活動を行っているNPO（非営利組織）、NGO（非政府組織）、ボランティア団体の活動資金、復興が生活再建へと移行することを見越して、熊本地震の被災地における市民（民間）による地域のコミュニティや暮らしを再生するための取り組みへの活動支援の2段階にわたる支援を企画しました。

緊急支援としては、①シャプラニール＝市民による海外協力の会（30万円）、②Terra Net＝テラ・ネット＝（50万円）、③ボーイスカウト熊本県連盟（50万円）、④国際NGO ADRA Japan（50万円）、⑤ピースウィンズ・ジャパン（50万円）、⑥チャイルド・ファンド・ジャパン（50万円）、⑦AMDA（50万円）の計7団体に総額330万円を寄付しました。今号では、ピースウィンズ・ジャパンからの活動報告を掲載します。

活動支援については、緊急支援の330万円を除く残額を「全国コミュニティ財団」と協働して、地域における地域の支援活動に助成します。現在、熊本県内に所在地を有し、熊本地震の被災地域で活動を行っているNPO・市民活動団体ないしは、熊本県内に在住在勤在学するメンバーを中心とした地域の公益活動に取り組む組織を対象に、公募を行っています。こちらの状況については、ダーナにて随時報告していきます。

### ピースウィンズ・ジャパン 3か月活動報告



崩れた家屋でのレスキュー犬による  
行方不明者捜索活動

#### <DAY1-3:レスキュー活動>

4月14日と16日に発生した震度7の地震を受けて出動した災害救助犬・レスキューチームは、熊本県益城町と南阿蘇村で行方不明者を捜索しました。

#### <DAY4-6:バルーンシェルター>

本震と余震が続く中、安心してき

る避難場所を提供しようと、益城町運動公園の一角に、倒壊の心配がなく、50人収容可能な大型テント「バルーンシェルター」を2基設置しました。特に避難所に入りにくい、ペット連れや女性の被災者に利用を促しました。



バルーンシェルターによる避難所開設

#### <DAY7-88:テント村>

(82日間:7月10日閉鎖)

ピースウィンズ・ジャパンは、地震発生一週間後、ペット同行避難者向けのテント村を益城町総合体育館の敷地内に設置し、5月1日には、再春館製菓所が所有する芝

生広場に2カ所目のテント村を設置しました。テント村には、入居者が自由に集えるコミュニティスペースをはじめ、生活に欠かせないシャワールーム、洗濯機、洗面台、仮設トイレを整備しました。日中外出している入居者のために、犬と猫の一時預かり所とドッグランも併設し、被災者とペットが安心して過ごせる環境を提供しました。また、入居者の健康管理を目的に、保健師や医療関係者に定期的に巡回していただくとともに、栄養が豊富な野菜料理などの炊



「再春館ヒルトップ」には  
48張の避難者用テントを設置



住民参加のさんまバーベキューの様子

き出しも7回提供しました。

2カ所のテント村には、2カ月半で、テント84張に延べ76世帯、277人、ペット91匹が避難しました。夏に向けてより過ごしやすい避難所へ移行するため、テント村は7月10日をもって閉鎖しました。

#### <DAY52-Now:ユニットハウス村> (46日間:7月20日現在・継続中)

夏場の熱中症や梅雨の大雨のリスクを避け、安心して避難できるスペースを確保するため、6月4日、テント村に代わる新たな避難所として、80戸のプレハブと5台のトレーラーハウス、キャンピン

グカーから成るユニットハウス村を開設しました。

ユニットハウスは6畳程の広さで、夏でも快適に過ごせるようエアコンと冷蔵庫を完備しています。付帯設備としてコミュニティスペース、シャワールーム4基、洗濯機6台、仮設トイレ15基、ペット一時預かり所、ドッグランを設置し、子ども用の学習室、調理ができる炊事場、薬剤師が常駐する健康相談室も整備しました。現在までに、延べ51世帯、131人、ペット62匹が避難しました。

ユニットハウス村では、部屋に閉じこもりがちな入居者が交流を深められるよう、趣向を凝らしたイベントを開催しています。これまでに、夏気分を味わえるサマーリース作り、短冊に願いを書いて笹に飾る七夕イベント、食べ物やゲームの屋台が軒を連ねる夏祭りなどを開催し、多くの親子連れや子どもたちでにぎわいました。ま

た、ボランティアによる炊き出しを週1回程度の頻度で行い、焼きそば、韓国料理、豚汁などを提供しました。

益城町では、当初は12カ所に1285戸の応急仮設住宅が整備される予定でしたが、入居できない世帯が230世帯に上ることが明らかになり、不足分の増設が進められています。避難生活の長期化が避けられないなかで、ピースウィンズ・ジャパンは、一人ひとりに寄り添った支援を今後も続けていきます。



ユニットハウス村に立ち並び  
プレハブとトレーラーハウス

#### 寺院縮小時代における 〈社会貢献〉を考える

公益財団法人浄土宗ともいき財団の協賛を得て、標記のシンポジウムを開催いたします。

本シンポジウムでは、人口減と高齢化が加速して、深刻な寺院縮小時代を迎えています。宗教の公益活動や社会貢献事業を通して、新たな活路は見出せるのか、これからの「伝統教団・寺院の役割」を考えます。

浄土宗平和協会、浄土宗ともいき財団の活動報告を始め、佛教大学教授・大谷栄一先生の講演、

大谷先生他、3名のゲストを交えたシンポジウムの3部構成となっています。詳細は、別送したチラシをご参照ください。

#### 共生こども連絡会議で 今年もポスターを

浄平協ほか、浄土宗保育協会、浄土宗児童教化連盟、浄土宗スカウト連盟でつくる「共生こども会議」は、今年度も引き続き、連合ポスターを製作することを決定、右のようなポスターを作成いたしました。

6月に全国の御寺院に、文化出

版局制作のポスターと共に発送されました。大きさはA2版。



## 浄土宗平和協会（JPA）



### 会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



おてらあやつクラブの活動より

## [入会要項] 浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

### 正会員

対象……浄土宗教師・寺族  
会費……年間10,000円

### 賛助会員

対象……檀信徒、企業や宗教法人以外の団体  
会費……檀信徒会員 年間 2,000円  
法人会員 年間 10,000円（一口）

正会員は、入会時に「私たちは平和を祈念します」と記された会員プレートを贈呈します。賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダーナに芳名を掲載します。正会員、賛助会員は、スタディーツアーに割引料金で参加できます。



### 平和念仏募金のご協力をお願い

平和念仏募金は、各NGO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、社会参加するお寺を顕彰する浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

恐縮ではございますが、何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆平和念仏募金は、浄土宗劈頭宣言にある愚者の自覚に立ち返り、「世界に共生」する平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金です。
- ◆①世界の人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する一との方針のもと、国

- 際的に活躍するNGO（非政府組織）を支援しております。
- ◆私費留学生希望図書支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生へプレゼントした書籍の購入費として役立たせていただきます。

## JPA 浄土宗平和協会4つ活動

- 1 平和念仏募金運動
- 2 ブック・ギフト事業
- 3 浄土宗平和賞
- 4 スタディーツアー・NGO支援

### 浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……川副春海	専門委員……小林正道
副理事長……戸松義晴	茂田真澄
秋田光彦	参 与……荻野順雄
理 事……齋藤隆尚	監 事……村上真瑞
嘉藤哲也	小泉顕雄
吉水岳彦	事務局長……池野亮光
深谷雅子	事務局……山口洋典
山川正道	大崎信久
大河内大博	霜村真康
堀 真哲	

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を同封いたしておりますのでご利用ください。

### 浄土宗平和協会（JPA）

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内  
電話075-525-0484 Fax075-531-5105

連絡・問合せ先：浄土宗平和協会事務センター

〒543-0076 大阪市天王寺区下寺町1-1-27

電話06-6771-7641 Fax06-6770-3147 メールjpa-info@jodo.or.jp

郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】



平和、共生、みんなのために